



# むたやま

久留米市立牟田山中学校通信

令和6年3月15日(金)No. 25 文責:校長

## 職業インタビューで働く方の思いを考えました

2月27日(火)の午後、2年生は職業インタビューに出かけました。久留米市内「ワンカルビ、久留米広域消防本部、聖マリア病院、GU、金丸保育園」等の29の事業所にご協力をいただき、子供たちが考えた質問にたくさん答えていただきました。

子供たちは、「仕事内容、やりがいや苦勞、その職業に就くために必要なこと、中学生のうちにしておいたほうがいいこと」等をインタビューしています。中には銀行で実際にお金を数える作業をさせていただいたところもあるそうです。どの事業所も中学生を温かく迎えていただき、精一杯話をさせていただきました。生徒はインタビューしたことをまとめ、5日(火)に発表会を行いました。授業参観でもありましたが、たくさんの方に見に来ていただき、ありがとうございました。

また、インタビューの様子が西日本新聞にも掲載されました。新聞が手に入らない方は、学校にコピーを掲示しております。来校されたときにどうぞご覧ください。

一部ですが、生徒が聞いたやりがいと苦勞をご紹介します。

やりがい…「また来たい」「ありがとう」と言っていただけのことやスタッフの名前を覚えてもらったこと(飲食店)  
笑顔が見られることや感謝してもらえること(消防署)

苦勞………スタッフが多いのでコミュニケーションをとったり、連携をしたりするのが少し大変(飲食店)



税務署での聞き取りの様子

3月5日(火)の発表会では、各学級で調べたことの発表を行いました。どの班も、感想を交えながら、わかりやすく伝えようとしていました。例えば、パティシエについて聞き取りをした班では、苦勞することに「重いものを運ぶ」ということが言われていました。お菓子を作るパティシエですが、お菓子を作るだけでなく、商品を並べたり、商品を運んだりするため、思いもつかない苦勞があることに気づかされました。インタビューで教えていただいたからこそ、わかったことだと思えます。クイズ形式で発表した班もあります。



発表の様子



発表の様子



伝言ゲームの様子



役員の方々



伝言ゲームの様子



答えを事務局に伝える様子

その後、体育館に移動し、100名以上の保護者の方にもご参加いただき、親子レクリエーションを行いました。各クラス AB の2チーム、合計10チームに分かれて、クイズの答えを伝言し、一番最後の人が答えを事務局に伝えるものでした。クイズを一部紹介しますと、

「♪夢ならばどれほどよかったでしょう この歌いだして始まる歌のタイトルは？」

「イヌが一瞬で大きくなるためにはどうしたらいいでしょう」

「タロー君の家には両親と5人の子供がいます。イチロー、ジロー、サブロー、シロー。あと一人の子供の名前は？」など、子供たちを惑わせながらも楽しめるクイズでした。

そして保護者の皆様から文房具のプレゼントをいただきました。

後日、牟田山ノートの感想を見てみると、多くの生徒が「楽しかった」「またしたい」と書いていました。役員の皆様、準備や運営、ありがとうございました。そして多くの皆様のご参加により、素敵な思い出を作ることができました。ありがとうございました。

